

第 1 回町田市文化プログラム実行計画策定検討委員会 議事要旨

日時	2017年5月29日（月）午後6時～8時
会場	町田市役所 10階 会議室 10-4・5
出席者	<p>■委員 香取幸一委員長、西田司副委員長、三上豊委員、岡田万里子委員、青島充宏委員、米増久樹委員、松香光夫委員、大久保明委員、仕田佳経委員、高野賢二委員</p> <p>■事務局 文化スポーツ振興部 能條、小田島 文化振興課 清水、戎谷、鈴木</p> <p>■運営支援 株式会社丹青研究所</p>
資料	<p>資料1 町田市文化プログラム推進計画 資料2 東京2020参画プログラムの進め方 資料3 2017年度スケジュール 資料4 町田市文化プログラムの枠組み 資料5 情報発信の検討</p>

会議内容

1. 委嘱状交付
* 能條部長から各委員に委嘱状を交付した。
2. 開会挨拶
* 能條部長から開会の挨拶を行った。
3. 委員会の主旨説明
* 事務局から委員会の主旨および運営についての説明を行った。
4. 委員の自己紹介
* 各委員から自己紹介が行われた。
5. 委員長・副委員長の選出
* 委員の互選による委員長の選出を行った。三上委員から香取委員が推薦され、委員長に就任することが決まった。また、委員長の指名により、西田委員が副委員長となった。
6. 議事
 - (1) これまでの成果と今年度の進め方
* 資料1から3について事務局から説明を行った。

■意見交換等

委員： 今年度は、市民参画を誘発させる仕組みや、参画することで生まれるメリットや結びつきの展開について議論するとよいと思う。

委員： 「町田の歴史」を公募企画のキーワードとしてはどうか。歴史の掘り起しを2020年度までの3カ年で積み重ねることで、2020年以降の取組につながると思う。なお、そのためにはタイミングと人の問題が重要であると考えている。

委員： モデルケースである「なんだろう！このアート展」において、東京2020参画プログラムにおける認証の効果があつたのか伺いたい。

- 委員： 公認プログラム認証の効果については図りかねる。オリンピックの機運や、文化的な盛り上がり、市民レベルにまで落ちて来ていないように感じる。認証マークの有無に関わらず文化的な活動は多数行われている。認証マークの付与についての情報発信や、付与をめざす取組の枠組みについて、本委員会で議論してはどうか。
- なお、「なんだろう！このアート展」は、町田市による広報協力のもと、和光大学ポプリホール鶴川を会場に、約3週間実施した。来場者へのアンケートでは、8割以上の来場者が図書館の利用を目的に訪れた人々であった。認証マークの認知度も低く、認証マークを付与した効果はあまり実感できなかった。今後、認証マークの認知度が上がれば、効果も出てくるのではないかと思う。
- 委員： 私も開催期間中に訪れたが、公認プログラムであることに気付かなかった。認証マークの効果をも高めるためには、早めの申請と告知が必要であると感じる。認証された事業に関する情報を町田市の広報誌に掲載するなど、認証を取得するメリットを持たせる必要があると思う。
- 委員： 取得した認証マークをチラシやポスターに使用するためには、データの加工などにある程度のスキルが必要である。認証マークの効果とあわせて、使い方や載せ方などについても検討する必要があると思う。
- 委員： 町田市民ホール等の予約抽選が1年前に始まることを考えると、2018年度に事業を行うためには、早急に会場を確保する必要がある。
- 委員： 町内会や自治会にとっては、準備や企画などのハードルが高い。申請に向けて町田市がリードする必要があると思う。
- 委員： 認証マークの利用にこだわると、本来、生かしたいイベントや事業などの障害になるのではないか。
- 委員： 「町田市文化プログラム」という言葉がわかりにくく、高尚なイメージがあるため市民が参加しにくいのではないか。町田商工会議所では産業振興イベントを実施している。町田市は全国的にみて創業意欲が大変高いことが特徴である。これも町田市の文化であり、町田市文化プログラムとして町田らしさを表現できるのではないか。
- 委員： 情報発信のあり方として、町田市のホームページを町田市文化プログラムに重点を置いた表し方にする必要があるのではないか。
- 委員： スケジュール的にはかなりスピード感をもって取り組まないと、市民への周知が間に合わないのではないか。また、市民公募企画を実施する際は、その主体はどこになるのか伺いたい。
- 事務局： まず、市民公募企画と、東京2020参画プログラムの申請というものは切り離して考えて頂きたい。東京2020参画プログラムの対象は、今年の7月以降に拡大されると伺っている。東京2020参画プログラム対象外の事業については、町田市が独自に町田市文化プログラムとして認定することも必要になるのではと考えている。なお、市民公募企画について、補助金のような形で支援ができないか検討しているが、その方法等についても議論いただきたい。

委員： 認証マークの意味が周知され、それに対する評価や、認証マークがついているプログラムに参加することの意義を市民が感じるようになれば、認証の取得に対する状況も変わってくるのではないかと思う。そして、事務局の説明にもあった補助金など後方支援の形についても本委員会で議論できればと思う。

また、委員から「歴史」というキーワードの提案があったが、町田市では障がい者も含めて歩行者が道路を使うということについて積極的に取り組み、「道」や「ストリート」が、市民生活に身近な都市であったという歴史がある。そういった歴史を含め、市民に身近なものを切口に検討していくと良いのではないか。

モデルケースについては、アンケート結果なども含めて、問題点等を報告いただきながら、議論できればと思う。

(2) 町田市文化プログラムの枠組み

*資料4について事務局から説明を行った。

■意見交換等

委員： 民間の幅広い既存事業を応援プログラムとすることで、町田の良さや賑いを町田市文化プログラムとして取り込むことができるのではないか。また、具体的に対象となりそうなものを掘り下げていくことで、町田市のモデル事業の検討にもつながると思う。

委員： 既存事業についてあらためて事務局からの情報提供をお願いしたい。

委員： 既存事業の活用では、市制60周年、ラグビーワールドカップ、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の3つをテーマに、事業内容をアレンジしてもらってはどうか。

また、町田市のモデル事業としては、町田市の魅力付けになるような事業であるべきだと思う。

委員： 既存事業に対する視点と、新規事業を検討する視点について、捉え方の共有を図る必要があるのではないか。

委員： 既存事業については情報を提供していただきながら議論を進めたい。また、新規事業は、新たな観点からの議論が必要となるはずなので、議論する場を持つことを事務局をお願いしたい。

委員： モデル事業は新規事業をイメージしていたが、モデルという言葉から考えると、既存事業の発展型のほうが市民にとってはわかりやすいのではないか。町田商工会議所の取組とアートがつながるとか、町田市文化プログラムを通して何か接点を結ぶプログラムのような新規事業やモデル事業を企画立案していくのではないかとイメージしている。

アーツカウンシル東京が主催している「TURN」という文化プログラムでは、多様性やダイバーシティ^{*1}といった言葉があるが、障がいのある人や福祉事業所の人達などマイノリティ^{*2}とアーティストが協働し、何かを生み出す取組が行われている。これまでは接点がなかったもの同士が何か接点を持つことにより、新しい文化や取組が生まれるということがある。町田市としては、何か新しい試みのようなものを方向性として考えているのか伺いたい。

事務局： 新規事業の方向性は特に設けていない。東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会後も、町田市は文化芸術によるまちづくりを進めていきたいと考えており、「町田市文化プログラム推進計画」は文化によるまちづくりの根幹を成すものと位置付けている。そのため既存事業であっても、将来に向けた付加価値をつける必要があると考えている。

委員： 市民の文化力を高めることが目標であると思う。「町田市文化プログラム推進計画」の参考資料として町田市の文化資源が掲載されている。それを活用してモデル事業を検討してはどうか。

事務局： モデル事業については予算のこともあるが、現段階では 1 件に限定してはいない。

委員： 育てるべき事業と、守り発展させる事業があると思われるので、複数検討しても良いと思う。

委員： 市民団体や任意団体が毎年行っている事業を発展させるには、補助金や他の団体との連携が無いと難しい。昨年度、町田市郷土芸能協会では町田市観光コンベンション協会と連携し、外国人に向けた取組を行った。町田市観光コンベンション協会が東京都の助成金を取得し、英語版のプログラム作成や、公演日にロビーに体験コーナーを設ける等、外国人の誘客を試みた。
また、街や地域の特性を生かしたものを、街全体で同時期に行うと盛り上がると思う。

委員： マーケティングの視点を取り入れるというご意見だが、重要な点であると思う。

委員： 町田市が主催した既存事業の開催時期や集客、それに対する評価などの情報が欲しい。そのうえで、市民を対象とすべきか、それとも市外からの集客も考慮すべきか、また、どのくらいの集客をめざすのか検討する必要がある。

委員： コンセプトやテーマ、誰に見せるのか、共通のルールのようなものを設けることで、さまざまな既存事業が参加しやすくなるのではないかと。

委員： 文化そのものは多面的なものであるが、ご指摘のように力点を置くというのは大事なことだと思う。

委員： 「市民全体が盛り上がっていく」ことが目的だと思うので、町田市域全体が盛り上がるためにも、商店連合会や町内会、自治会など様々な団体が一つの目的に向かって取り組めるものがあると良いだろう。

委員： 市民の盛り上がりというのはとても大切であり、テーマ性やターゲットの検討というのも非常に大切だと思う。そもそも町田市政がめざしているものとの関連性を踏まえながら検討する必要もあるかと思うので、周辺情報をいただきながら第 2 回以降にも議論していきたい。

委員： シティ・プロモーション事業と連携して市民企画を募集した方が良いと思うが、町田市文化プログラムと町田市政の方向性等について伺いたい。

事務局： 町田市では2018年から2020年までの3ヵ年についてシティ・プロモーションを重点的に行う期間として位置付けている。町田市文化プログラムはそれらの取組と並行して進めていくものであり、深く関連して進むものであると考えていただきたい。

(3) 情報発信の検討

*資料5について事務局から説明を行った。

■意見交換等

委員： 町田市ホームページのトップページ上の目立つ位置に「町田市文化プログラム推進計画」のページへのリンクを置くことはできないか。また、民間の情報媒体の活用も検討する必要がある。

委員： 過去の街並みなど、町田の歴史のビジュアル化をしてはどうか。インターネット上で容易にアクセスできる環境を整えると良いと思う。また、絹の道など「道」をテーマにすることで、町田の歴史的なものの掘り起しができるのではないか。

委員： 伝統文化等も含めたアーカイブ^{*3}の充実が必要ではないか。また、町田市文化プログラムについて、町田市のホームページ上でもアクセスしやすくしたり、検索サイトでヒットしやすくしたりするなどの工夫を検討してほしい。

委員： 誰に向けた情報発信かについても考慮する必要があると思う。ホームページ等の電子媒体は、閲覧できる人が限られると思う。紙媒体の効果についても、情報を隅々まで発信するという点において検討すると良いのではないか。

委員： 一般財団法人町田市文化・国際交流財団が開催するイベントは、ホームページ、一般財団法人町田市文化・国際交流財団の情報誌、チラシ、ポスターなど様々な手段で情報発信をしているが、来場者へのアンケート結果では、「広報まちだ」を見ていらした方が最も多い。当施設を訪れる方の年齢層が高いという傾向もあるが、情報発信の手段としてはデジタルだけではなく、紙媒体も重要だと思う。また、何かを募集する際には、町内会連合会や自治会、小・中学校に協力をお願いし、チラシを配布している。ただ、膨大な量になるため、そのあたりをどのような協力体制で行うのか検討する必要もある。

委員： 紙媒体のなかでも新聞、特にローカル紙が有効である。そのほか、公共施設でのポスターの掲出も有効である。町田市民への情報発信としては、紙媒体が主流と考えられるが、集客ターゲットを市外へと広げた場合は、発信の仕方も異なると思う。まずは、町田市文化プログラムの集客ターゲットの検討が必要である。

委員： 町田市内に多数ある町内会や自治会等での回覧や、直接説明に伺うというのも効果的である。また、印象的なポスターを市内各所に掲出するというのも、興味・関心を引く効果があるだろう。さらに、大学生のマンパワー活用に向けて、大学構内に掲出するなど、大学生に向けた情報発信もよいと思う。

委員： 商店会に協力をお願いし、商店街の街路灯にタペストリーを掛けてはどうか。小・中学生など、学生の絵をデザインに活用しつつ、認証マークを入れるなど、市民参加により展開することで、町田市文化プログラムへの参加促進や盛り上がりにもつながるのではないかと。

委員： タペストリーの制作を通じた機運醸成や、紙媒体への再評価についてのご意見があった。これらをふまえて第3回では詳細をご議論いただきたい。

(4) その他

* 第2回策定検討委員会の日程について確認を行った。

事務局： 次回の委員会は6月30日（金）とさせていただきたい。欠席する委員には、別途資料を送付させていただく。

[注釈]

- ※1 ダイバーシティ：多様性。年齢や性別、文化的背景など多様な個人的特性を受け入れ、広く人材を活用しようという考え方。
- ※2 マイノリティ：社会的な少数派や弱い立場に置かれている人々。
- ※3 アーカイブ：活動の記録を保存・活用し、将来に伝える機能。